

『林業経済』編集委員会 (50 音順)

山本 伸幸 (編集委員長) 興梠 克久 (副委員長) 原 研二 (副委員長)
 石崎 涼子 市川 隆史 小川三四郎 佐藤 孝吉 柴崎 茂光 関岡 東生
 関 良基 竹本 太郎 立花 敏 寺内 大左 早瀬 悟史 三木 敦朗
 山本 美穂
事務局
 土屋 俊幸 (所長) 大西 純 (事務員)

《編集後記》

本号には「論説」を掲載した。本誌掲載規定によれば、「論説」とは「これまで行われてきた議論をふまえ、客観的事実を基に、何らかの立場に依拠し展開された論述であって」、論文ないし研究ノートには該当しないものをいう。一方、「論文」は「①客観的な資料・考察に基づいて広範な視点から論じたもの、または研究動向、議論や問題点を独自の観点から整理し、著者による論評や将来の展望を加えたもの」、または「②独創性のある理論的または実証的な研究で、目的ないし課題を明示し、それに対して適切な手法を用い、対応した結論が導かれたもの」をいう。さらに「研究ノート」は「一連の研究の中間報告、予察的な研究報告、調査報告など、研究上、記録にとどめておく価値があると認められるもの」である。なお、いずれの区分の場合も、編集委員会の査読体制に基づいた審査を経ることは同様である。

ちょっとこれだけでは違いがわかりにくいと思うが、まず、「論文」と「研究ノート」の関係は、後者の説明に「中間報告」、「予察的」という言葉が使われているように、あくまでも論文に至るプロセスにあるものを「記録」として残すことに主眼がある。これに対して「論説」は、論文ほどには、既存の研究等を踏まえる網羅性、新規性、独

創性は要求しないが、ある論点について、自分の立場を明らかにした上で、客観的な事実とこれまでの議論を踏まえて論を展開することを求めている。『大辞林』によれば、論説は「事物の内容や理非を論じ、自説を述べたり、説明したりすること。また、その文章」とある。自説をしっかり主張し、論争を起こしていただきたいのだ。

本号の大住氏の論稿は、まさにこの論説に相応しい内容だと思う。現在、広葉樹材の利活用が注目されており、当研究所が運営を担当した最近のシンポジウムもテーマは国産広葉樹材の利用のあり方だった。大住氏は、最近の「広葉樹資源活用論」に対して、持続的な資源管理という原則を踏まえることを強調し、論戦を挑まれている。

ここで話は本誌の公開時期に飛ぶ。本誌のJ-STAGEでの公開は、書評等を除いて1年後としてきた。しかし、論説が、その時々々の論調の中で、論戦を挑むものであるのならば、1年という縛りはあまりにも長い。少なくとも今号掲載の論説については、今すぐに著者のお考えを世に問うべきと考え、即公開の措置を所長の責任で採らせていただいた。読者の皆様からのご意見をぜひ伺いたい。

(土屋)

研究所業務日誌 (2024 年 10 月)

10 月 5 日 令和 6 年度 (公社) 国土緑化推進機構
 「緑と水の森林ファンド」助成シンポ
 ジウム (於東京大学)

10 月 7 日 第 4 回編集委員会
 10 月 21 日 『林業経済』10 月号校了

林業経済 (月刊)

(禁無断転載)

定価 880 円
 (本体価格 800 円)

編集発行人 永田 信

発行所 一般財団法人 林業経済研究所

〒 113-0034 東京都文京区湯島 1-12-6 高関ビル 3A

電 話 03-6379-5015 FAX 03-6379-3210

E-mail : office@foeri.org URL : <http://www.foeri.org/>

☆本誌は予約購読を原則とします。購読ご希望の方は直接、当研究所までお申し込みください。

1 年 10,560 円 (送料共) (本体 9,600 円、消費税 960 円)

学生および院生は 1 年 5,500 円 (本体 5,000 円、消費税 500 円) になります。

購読料の振込先

口座名義人：一般財団法人 林業経済研究所

銀行の場合：三菱 UFJ 銀行 秋葉原支店

普通預金口座 4560904

郵便局の場合：振替口座 00110-1-147629

印刷 株式会社ソウブン・ドットコム 東京都荒川区西尾久 7-12-16